

社会教育研究部門

「青年の自立と教育文化」研究部会（第55回）

日時：2017年9月22日（金）14:00～16:00

場所：野間教育研究所 2F 閲覧スペース

出席：田嶋一・上野浩道・青柳路子・齋藤智哉・内藤俊史 各兼任研究員
吉久知延所長・金沢千秋・泉水里香

内容：青柳路子氏の研究中間報告

(1) 紀要論文「親を亡くした青年の自立と支援—あしなが育英会を例に一」（仮）

◆全体構成と内容

1. はじめに：問題意識

研究方法と論文構成(先行研究の状況も)

2. あしなが育英会の「教育」の取り組み：概要と歴史

(1) あしなが育英会における「教育」

・奨学生の「つどい」を中心に：2017年夏の関東ブロックの高校生のつどい「赤城のつどい」に参加した経験から、各プログラムの詳細報告→それぞれの教育的側面・効果を考察する予定

(2) 「あしなが運動」牽引者・玉井義臣の教育観→玉井の著書とあしなが育英会機関紙「あしながNewファミリー」からまとめていく

3. 遺児たちの課題と自立に向けた歩みへの支援

(1) (仮) 遺児たちの課題：先行研究および「あしながファミリー」「あしながNewファミリー」掲載の奨学生の言葉から課題を取り上げる

(2) (仮) 遺児たちの課題と自律に向けた歩み：大学生や育英会スタッフで過去に奨学生だった方へ聞き取り

4. おわりに：結論と今後の課題

(2) 意見交換

- ・他のサークルとどこが違うのか？ どこに特徴があるのか、あしなが独自のシステムの研究を青柳氏の考察で書いていくといい（上野）
- ・感謝感情の研究をしている立場からみると、感謝を世界全体へ返すという育英会の思想に関心がある。負い目があるから恩返しというのが、変な方向にいかないといい。感謝には相手が必要。相手が曖昧だと感謝感情は生まれにくい、あしながではそのあたりは？（内藤）
- ・「追加」となっている「つどい」の事前研修の部分こそ調べてほしい（齋藤）
- ・海外へのコンタクトはアフリカが多いのはどうしてか？（田嶋）
- ・大事なテーマを扱っているが、具体的に「あしながNewファミリー」から見るとか、何かに絞り込んで研究しないと難しい（上野）
- ・高校生は自立の只中なので、大学生以上を対象にしたほうがよさそう（青柳）

・次回研究会は、10月20日（金）14:00～。齋藤研究員の報告予定